

京都大会が終わりました

理事長 福井 直美

8月7日・8日、千年の古都、古くから日本の政治・文化の中心地として栄え、金閣寺や清水寺をはじめとする文化財が多く残る京都において、第71回全国幼児教育研究大会京都大会を開催しましたところ、800人を超える参加者を迎え、盛大に行うことができました。全幼研は80年の歴史にむけて、新たな一歩を踏み出しました。

今、急激な社会状況の変化による予測困難な時代を生き抜いていくためには、様々な力を幼児期に蓄えていくことが大事であると言われていています。大会テーマであるウェルビーイングのとらえ方についても様々に議論されているところです。

子どもが未来を幸福で自己充実して生きていくために、幼児期に大切なことは何か、一人一人のウェルビーイングとは何かに視点をあて、心身共に健康、安全であることを基本に、社会みんなとつながり、幼児の育ちを支えていかれるようにと願い、その実現に向かって2日間、語り合いました。

全体会では、文部科学省初等中等教育局 幼児教育課 藤岡謙一課長より、幼児教育の置かれている厳しい現状や課題を中心にお話をお聞きして、幼児教育の質の向上を目指すことの重要性をそれぞれが確信したと思います。



引き続き 未生流笹岡家元 笹岡隆甫氏による「いけばなパフォーマンス」と講演で、心豊かな時間をいただき、私など失いかけていた感性が目覚めたような気がいたしました。



2日目の分科会はどの会場も、時折笑い声も起きる和やかな雰囲気の中で、熱心に語り合い、発表する様子から、参集して保育を語り合う機会を皆さんが待っていたという気持ちが伝わってきて、これからの保育に明るい兆しが見えたような気がいたしました。

本研修会にご指導・ご助言をいただきました京都府、京都府教育委員会・京都市教育委員会をはじめとして関係の皆様にもお越しいただき、幼児教育への期待を感じました。ありがとうございました。

多くの貴重な資料を準備していただき、暑い中、公開保育をしてくださった各園の園長先生方ありがとうございました。

また、本研修会の実施に当たり、様々なご準備をいただきました 村上ちひろ運営委員長を始めとする、京都支部の皆様、本当にありがとうございました。

次の第72回愛知大会に幼児教育への熱い思いはつながりました。

来年は愛知県にてお目にかかりましょう。



会場だけでなく、リモート参加者のブレイクアウトルームも、子どもたちの生け花体験も大盛況でした。